



宮城県婦人防火クラブ連絡協議会会長

吉田 八重子



新潟中越地震で被災されました皆様に哀悼とお見舞を申し上げます。

私は宮城県婦人防火クラブの吉田と申します。宮城と言えば宮城県北部連続地震で全国の皆様方より大変な援助をいただき、誌面をお借してお礼申し上げます。

宮城は仙台市を中心にして、仙南、仙北と大きく分かれ、それぞれ地域に合った活動を心がけ「我が家から 火事を出さない 出させない」「自分達の地域は自分達で守る」と同じ目的に向かって、初期消火訓練、救急救命講習会、防火教室、講演会、行政が行う防災訓練に炊き出し等、災害に向けた訓練を行っております。また、年に1回県庁講堂で行うリーダー研修会、地震による家具の転倒防止講習といったように、クラブ員が自分達でできることから実践に向かって活動しております。

私が住んでいるのは、仙南地区の、仙台の中心より30km南にある岩沼市です。昔から交通の要所であり、常磐線、東北本線の分岐点、国道4号6号の合流点として栄え、日本三稲荷の竹駒神社、牡丹の名所金蛇水神社、東北の玄関仙台空港と乗物の便利を誇る所です。なんと言っても冬の雪の少ない住みよい所です。

まず私達婦防は全戸加入なので、43,000余市民の中で、会員は3,400余人です。ただ、市の中心街に婦防がないのが悩みの種です。クラブ員は穏やかな人達です。

新年の出初式では120人が出勤して安全祈願をし、市中心街を行進して岩沼小学校校庭での放水で年間の行事が始まり、総会、防火教室、救命講習、年1回9月に消防団員と行う消防操法競技大会、婦人防火クラブ員の初期消火競技大会では、日頃の腕前を十二分に発揮して優勝を争います。アトラクションとして団員と婦防との混合運動会を行います。これは大会の花で、ひときわ大声になります。また、研修会では市民会館大ホールに1,000人の会員が集まり、体験発表、講師を招いての講演、歌や踊りのアトラクションと、日頃の疲れも忘れて楽しく一日を過ごします。秋には防火広報で、市内全地区を広報車で巡ります。そして全市内に「火の用心」の桃太郎旗をかかげ皆様に啓蒙活動しております。それらの成果として、火災がありませんと、私達婦防の地道な働きが微力ながら安全安心の行政に役に立つと自負しております。

これからは県内全域で必ずやって来ると専門家が言っている宮城県沖地震に向け、何ができるか、私達婦防の役割は重いものがあります。自分達でできることから、まず自分の命を第一に救助活動を、そして被災者救助、避難所の介護等と、行政に頼ることなく私達女性特有の細やかな心づかいで行動をするよう、取り組んでおります。県内29万人の婦防の皆様が常に地域の方々と協力し、力を合わせて「火事を出さない 出させない」「自分達の地域は自分達で守る」その気持ちでがんばっていただければ、宮城県は、火災、災害から救われるのではないのでしょうかと心に祈る日々でございます。

(消防庁機関紙「消防防災／

2005-11・冬季号」より転載)